



令和5年度 今年も素敵でおいしいそうなお弁当がたくさん選ばれました。小・中学生の部で選ばれた各賞のお弁当を紹介します!

あらかわお弁当レシピコンテスト 受賞作品発表!

荒川区長賞

しょうがっこう 小学校
ねんせい 1~3年生の部

ここにこ、いろどり、おべんとう。



しほりしょうがっこう ねんせい 2年生
あおば なぎさ 青羽 渚さん

おとうとがピクニックに行きたいといっていたので、このおべんとうを作ってみなで食べました。おとうとはレンコンハンバーグがおいしいといって、うれしかったです。

しょうがっこう 小学校
ねんせい 4~6年生の部

なつ やさい 夏野菜で
なつ べんとう 夏バテ防止弁当



だいまんしょうがっこう ねんせい 5年生
おいかわ 及川 ひよりさん

夏バテ気味のお父さんに元気を出してほしくて、お弁当を作りました。夏野菜をメインに、色どりを考えたりサッパリしたものを入れたりしました。

女子栄養大学学長賞

しょうがくせい 小学生の部

「まごわやさしい」にじいろべんとう。



だいさげたはしょうがっこう ねんせい 3年生
あみの 網野 太人さん

みためがにじのようにカラフルで元気になれるようなおべんとうをつくりました。お母さんと「まごわやさしい」しょくざいをかながえました。

ちゅうがくせい 中学生の部

おいしい! ヘルシー! まごわやさしいyō! 弁当



すわだいちゅうがっこう ねんせい 2年生
わたなべ りん 渡邊 凛さん

いつも手作りの食事を作ってくれる母の助言をもらい、「まごわやさしい」という日本ならではの言葉で、栄養バランスのよい日本食のお弁当を作りました。

ちゅうがくせい 中学生の部

「さあにぎやか(に)いただく」
祖父母のためのフレイル予防弁当



すわだいちゅうがっこう ねんせい 2年生
さいとう このか 齊藤 好花さん

祖父母が元気でいられるよう、食品摂取多様性スコアを構成する10の食品群の頭文字の「さあにぎやか(に)いただく」を参考に、バランスのよいお弁当を作りました。

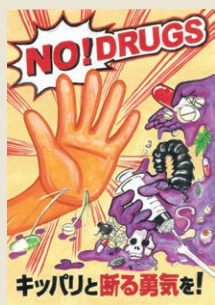


どれもおいそうだね!

Topics

令和5年度薬物乱用防止ポスター・標語東京都選考で入賞しました

やくぶつらんようぼうし すいしん あらかわ ちく きょうざい かい 薬物乱用防止推進荒川地区協議会では、区内の中学生に薬物乱用問題への関心を持ってもらうため、毎年、薬物乱用防止ポスター・標語作品を募集しています。今回、荒川地区で集まった作品のうち、地区会長賞となったポスター・標語を東京都選考へ推薦したところ、下記の作品が入賞しました。東京都全体ではポスター・標語で計44000点以上の応募があり、荒川地区推薦のポスターが入選したのは6年ぶり、標語は初の入選です。入選した作品は、東京都庁や都の施設などで展示されました。



ポスターの部 優良賞
だいさんちゅうがっこう ねんせい 第三中学校1年
たんの あやね 丹野綾音さん

その手には薬物ではなく未来をつかもう

標語の部 優良賞
すわだいちゅうがっこう ねんせい 2年生
いそべ ささら 磯部沙良さん

あらかわ 今昔ものがたり 日 [あらかわの歴史と伝説]

その150 川を渡る~尾久と渡し場~

♪春のうらの 隅田川 のぼりくだりの 船人が♪
この歌、知っているかい? そうそう、滝廉太郎作曲の「花」。船が行き交う春の隅田川を詠った歌だね。明治時代から昭和時代の初め頃、水上交通としていろんな船が利用されたんだ。この頃のあらかわでは、千住大橋以外に橋が無かったから、船は対岸に渡るためにとても重要な役割を果たしたんだよ。
歩いて渡る! といっても、船を必要としないひと 江戸時代、上尾久村の華蔵院(東尾久八丁目)の威震さんが、夜になると寺の裏の荒川(現隅田川)を歩いて渡り、千住(足立区)の方に出かけて行ったというんだ。目的は、名倉接骨院に嫁いだ娘さんに会うためと言われていた。威震さんが、剣術の新陰流の達人だったから、水上を歩けたともいうよ(『尾久の民俗』)。もしかすると川の流れや浅瀬をよく知っていたから、できたのかもしれないね。じゃあ、尾久の村人たちはどうやって渡っていたのかな?
小台の渡し もともと尾久には、小台の渡し

【問合せ】あらかわ 荒川ふるさと文化館
☎(3807)9234



(現西尾久三丁目)という古い渡し場があった。村人だけでなく、西新井大師(足立区)などのお参りにも利用したそう。明治時代には、対岸に有名な「五色桜」があったので、その見物客でさらに賑わったそうだよ。
近代を見てきた渡し場 実はね、尾久には他にも渡し場があったんだ。近代になると、尾久の川沿いの辺りは工業地帯になっていった。上尾久の江頭(現町屋五丁目)に新渡し、東(現東尾久八丁目)に熊野の渡しが開業したんだって。工場で働く人たちの通勤手段として必要だったんだね。昭和7年(1932)頃の熊野の渡しの利用者数は15,600人を数えたそうだよ(『東京市荒川区勢要覧』昭和9年)。関東大震災の復興事業で、小台橋、尾竹橋などが架けられ、小台の渡しと新渡しは消えていったけど、熊野の渡しは戦後まで残っていた。対岸の工場の寮が尾久にあったので営業していたんだ。でも、工場がなくなって、昭和25年3月に営業を終えたんだって(『尾久の民俗』)。
今度、渡し場の跡を散策して、渡し場があった頃の尾久の風景を想像してみてね。



小台の渡し『新東京大観』上
あらかわ ふん さと 文化館蔵